

●巻頭対談／近畿の未来 「地域の守り手」として期待される建設の役割 長谷川朋弘氏×梅本正樹氏	1
●レポート・最前線 大規模水害から福井を守る 日本最大級の流水型ダム 足羽川ダム本体建設工事	5
●建設DX最先端 コンクリート打設の自動化を目指す 足羽川ダムの「Construction2.0」	7
●北海道新幹線 札幌トンネル 銭函工区での取り組み ●未来へのとびら （建築エンジニア）周囲とワイン×ワインの関係を築く！ 森江玄弥さん （土木エンジニア）経験則を増やしインフラを支えたい 高宮佳歩さん	9
●偉人たちの歴史街道 「稲むらの火」と広村堤防 津波から村民を救い、復興に導いた 浜口梧陵	11
●JORE Walker 城跡・金魚と「箱本十三町」 大和郡山	15
●ランドマーク 阪神・淡路大震災30年特別企画 神戸つ子が待ち望んだ「三宮」の再整備	17
●トピックス 建築絵本シリーズ（復刻版）	21

歴史のある風景

90余年の役目を終え、須磨へ。旧和田岬の赤灯台。

神戸の西、須磨海岸の片隅に佇む、真っ赤な旧和田岬灯台。

東に5km離れた和田岬（神戸市兵庫区）に建てられた灯台を移設したものだ。

開国後の明治初期、日本が諸外国との交流・交易のために造られた灯台は、重要なインフラ施設であるとともに、近代文化遺産でもある。

灯台は1872年（明治5年）、イギリス人技師、リチャード・ブラントンが設計。

ブラントンは和歌山県串本の檉野崎や潮岬灯台をはじめ全国26箇所の灯台を建設したことも知られる。

当初は木製で、1884年（明治17年）耐久性の高い鉄製に改築された、

現存する国内最古の鑄鉄製灯台である。

1963年（昭和38年）和田岬周辺の海岸の埋め立てに伴い、赤灯台は90余年の役目を終え、須磨へ。

1998年（平成10年）には登録有形文化財に指定された。

はて、赤灯台とは。

港の入り口を船舶に知らせるための目印で、

港に入る時、船の右側に赤灯台、左側に白灯台が見えるように国際的ルールで決められている。

船舶の安全に欠かせない。港の守り神、が赤灯台だ。



2025年7月撮影



須磨区のマンホールにも旧和田岬灯台が描かれている

